

9月27日(月),日本規格協会東北支部において第177回定例会が開催された。出席者は23名であった。検討された事例は以下のとおり。SN比を用いたブラケット強度解析手法の評価;多田淳一(アルプス電気株):機能性評価祭に発表するテーマとしての内容の相談。議論の結果,単に固有技術を判断するための評価方法の比較だけではなく,コストと効果のバランスを取るQEらしさを出した方がよいとのアドバイスがあった。コンタクトプローブピンの機能性評価;井上俊之(株ケーヒン):機能性評価後のテストピースの断面解析結果を含めて結果解釈等を検討した。議論の結果,「構造,材料の違いが機能性評価結果に現れている」と判断しても良いのではないかとの見解となった。機能性評価祭りの事例説明に資料追加し報告する予定。混合型直交表の作り方;菊地富男(KTS&C):混合型の2水準系,3水準系の直交表の作り方について,参考とした文献の説明が冒頭にあった。ウィリアムソン(Williamson)の4P系直交表,ペイリー(Paley)の巡回型直交表及び直積型直交表の作り方の概要を説明し,前記三種類の直交表についてエクセル関数で作成した詳細な資料とエクセルのVBAで作成したプログラムが提供された。成形シボ加工面の評価方法検討;中沢和彦(アルプス電気株):成形のシボ加工面の評価を官能評価からMTシステムを活用した判別に変えられないか検討している。通常は光の反射で評価するところであるが,今回,2次元面に対する表面形状のデータを使って判別ができないかと着想した。RT法を活用した試行では光沢有り/無しの識別できそうな結果となった。中沢和彦(アルプス電気株)記

10月22日(金)日本規格協会東北支部において第178回定例会が開催された。参加者数は17名であった。報告・検討内容は以下のとおり。中国訪問について;菊地富男(KTS&C)10月13日~10月17日に中国を訪問し,無錫のアルプス電気の工場及び昆山を拠点に品質工学のコンサルティングを行っているa+plus CONSULTINGを訪問したことに関する情報提供があった。フリーソフト「EXCEL関数総合」の紹介について;菊地富男(KTS&C)KTS&CのホームページおよびVECTOR社にフリーソフトとして掲載中のソフトについて紹介があった。これは,統計学に使用されている各種分布,実験計画法及び品質工学のプログラムをEXCELの関数で作成したもの。今回は,品質工学のプログラムを中心に内容の説明を行うと共にVECTORに掲載中の他のプログラムについても紹介された。直交表の教え方に関する議論の経過報告;宇井友成,飯澤尚文(アルプス電気株)分科会形式で直交表の教え方に関する議論の経過報告があった。たたき台として作成した講義資料を元に,講義のスタイルや,講義の重要ポイント等に関する意見があった。ZINKプリンタ最適化のための評価方法の確立;徳田繁人(アルプス電気株)ZINKプリンタは,発色層が織り込まれてあるZINK用紙を使用し,カラー印刷をおこなうプリンタである。これまでのアドバイスを元に用紙の評価装置を作成し,L18直交実験の報告があり,議論された。用紙の引っ張り負荷で不良が判別できるのであれば,肉眼で判別する為のグレーパターンでなくより負荷を大きくする印画パターンを見つけてはどうかなどというアドバイスがあった。小野元久(宮城教育大学)記